

防災・減災から国づくり・地域づくりを考える

防災・減災と地域づくり

公共政策学科教授 首藤正治

防災チェックリストの例

■ 災害予防を目的とした取り組み主体ごとのハード・ソフト対策

防災・減災チェックリスト

区分 主体	ハード（物的防災力）			ソフト（人的防災力）		
	民間建物	公共施設 ・インフラ	設備・備品	人づくり	組織・活動	制度・ルール
個人・家族						
隣近所・町内会						
自治体						

*自身の家庭、町内、自治体において、一定の準備ができている部分は○印、重要だが取り組みが遅れている部分には□印をつけ、□内にはスケール区分ごとに優先順位をつけてください。取り組みを考慮する必要性が薄い部分は空白で構いません。

防災への取組みを概観すると

■ 災害原因による区分

- 暴風、竜巻、豪雨、豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、高潮、地震、津波、噴火、地滑りその他の異常な自然現象
- 大規模な火事
- 爆発その他 (災害対策基本法)

■ 対象範囲(スケール)による区分

- 町内、市町村スケール、都道府県スケール、全国

■ 取り組み主体による区分

- 個人、自治会、市町村、都道府県、国

■ ハード・ソフトの区分

- 構築物対策、設備備品、意識啓発、防災組織、制度

■ フェーズの区分

- 予防、発災・初動、応急対策、復旧・復興



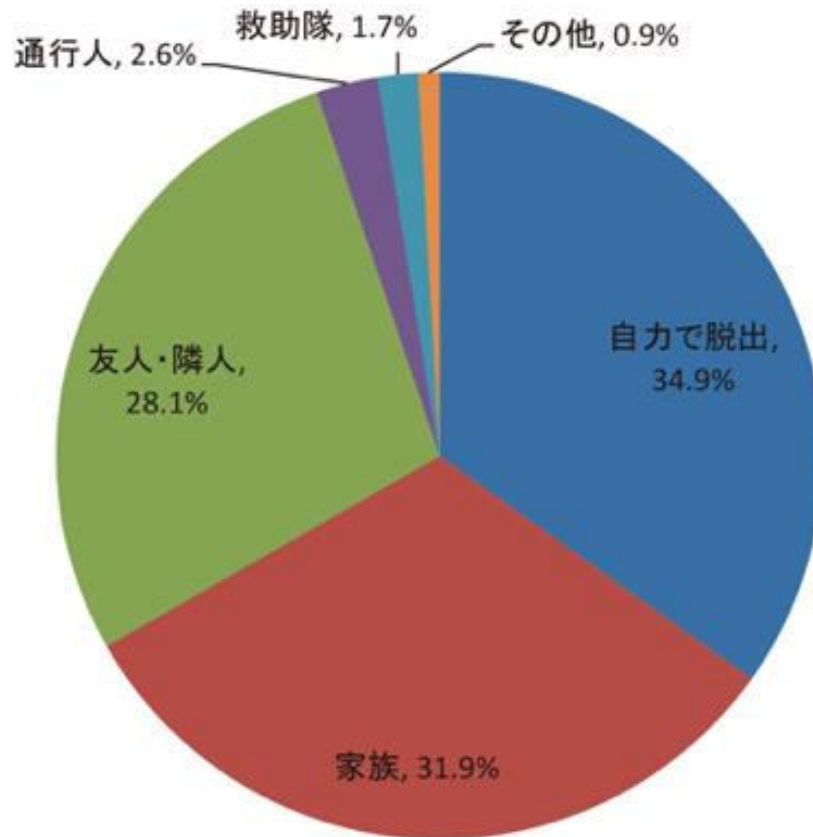
■ 多彩な切り口で整理して備えておく必要性

今日の私からの話の切り口

- 「協働」という視点から見た防災のまちづくり
 - 自助・共助の重要性
 - 協働を進めるための自治体としての工夫
 - 《協働》市民同士、行政×市民、自治体×自治体、etc.
 - 災害を超えて市民協働のまちづくりへ

自助・共助・公助

- 阪神淡路大震災における生き埋めや閉じ込めからの救助主体



- 自助・・・66.8%
- 共助・・・30.7%
- 公助・・・ 1.7%

(社)日本火災学会の報告書 (1996)

延岡市における事例



平成18年9月17日 竜巻災害

平成18年9月17日 14:05~14:08

市役所 ●



竜巻の通過したコース



竜巻による市内の被害状況 ⑥



竜巻による市内の被害状況 ①

竜巻災害対応(時系列)

【平成18年9月17日(日)】

10:00 台風13号の強風域に入る

13:00 延岡市災害警戒本部設置

14:05頃 竜巻発生

JR日豊本線特急脱線転覆 6名軽傷

浜町、山下町で3名が死亡

14:30 延岡市災害対策本部設置

被害情報収集と被災地全域の住民安否の確認

18:00 災害救援ボランティア本部設置(社会福祉センター)

災害ボランティアネットワーク等へボランティア要請

20:00 延岡地区建設業協会が被災地での安全確保、
道路の通行確保、翌日作業のための調査開始

【9月18日】

- 8:00 災害ボランティアネットワーク、学生、市職員など
約1,000名のボランティアが被災地で活動
- 9:00 市役所内に「総合相談窓口」開設
災害対策本部(厚生班)が住家屋の被害調査を実施
市クリーンセンターと建設業協会が災害ゴミ等の収集
運搬実施
- 10:00 県知事が被災地調査に入る
- 20:00 「災害救助法」、「被災者生活再建支援法」適用決定

【9月19日】

- 9:00 災害対策本部(建築班)が住家屋の被害調査(詳細)

【9月21日～27日】

夜間「出前相談窓口」を開設(6か所)

ボランティアの活躍

- ボランティアの活躍で迅速な復旧が実現
 - 発災日の夜に建設業協会が重機で危険物除去
 - 翌日早朝からボランティアによる復旧作業



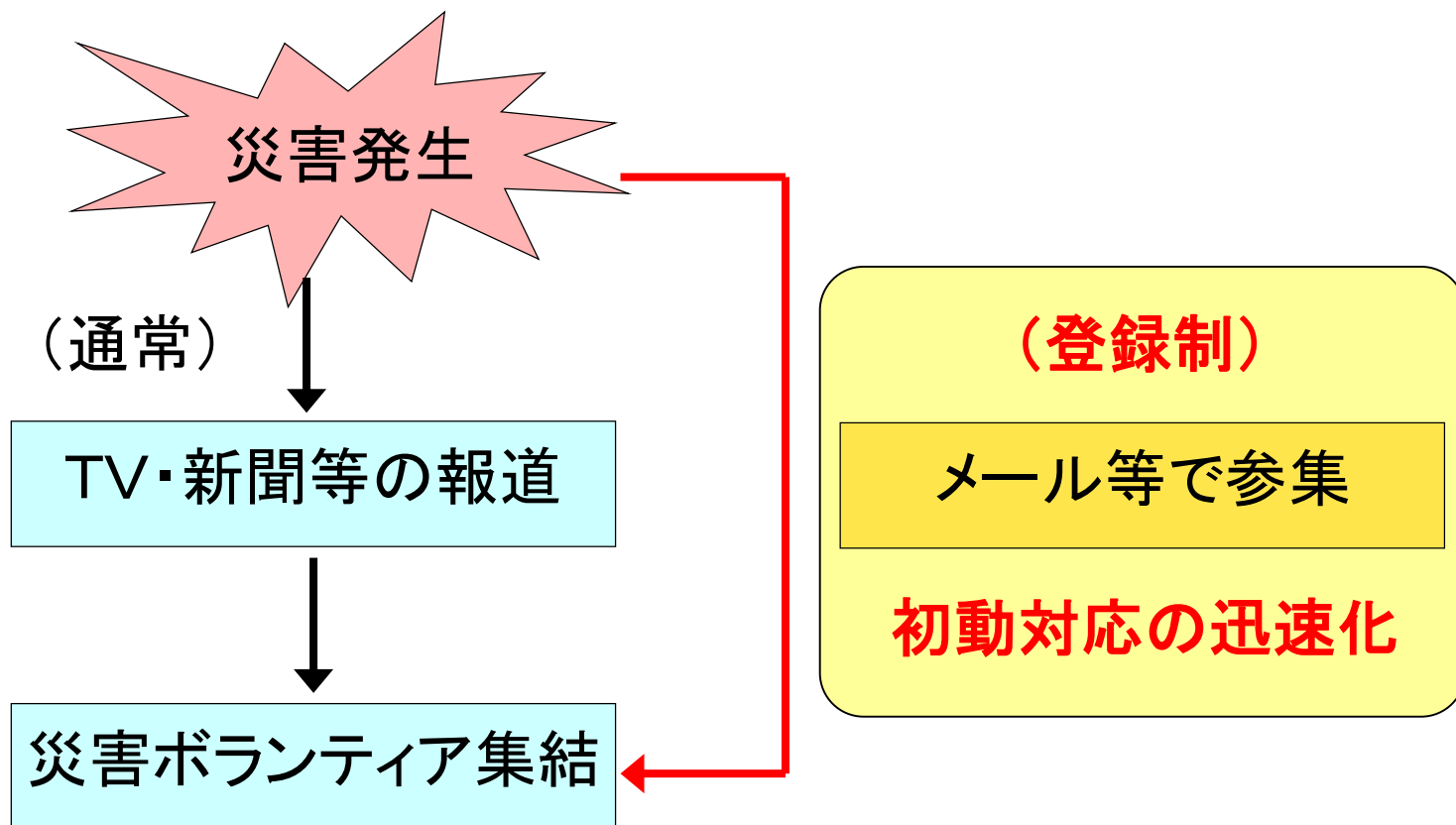
これを可能にしたのは

- 災害時応援協定
- 災害ボランティアネットワーク



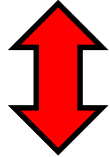
学生も加わり災害ボランティア活動

事前登録制による災害ボランティアネットワーク



市民・ボランティアが冷静に対応するために

- 災害リーダー、ボランティアコーディネーターの必要性
- 「正しく恐れる」ことが大切
- **パニック心理**（不安や恐怖で混乱）



- **正常性バイアス**
 - 「自分は大丈夫」、「まだ大丈夫」
 - 東日本大震災で津波注意報を聞いて海岸に野次馬
 - 自分に都合の悪い情報を無視、過小評価する
 - 心の平安を守るための脳の防御作用
- パニック心理や正常性バイアスに陥らないために
 - 自主防災組織活動
 - 避難訓練
 - 防災講話

準備を徹底することしかない

竜巻災害を教訓とした協働の取り組み

■「災害ボランティアリーダー養成講座」の開催



竜巻災害を教訓とした協働の取り組み

■「災害ボランティアリーダー養成講座」終了式



竜巻災害を教訓とした協働の取り組み

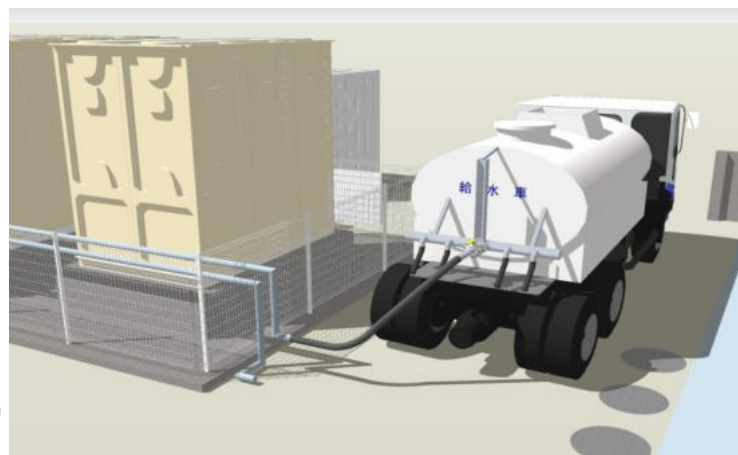
■「お助け隊」(コンビニ・厨房・配送ネットワーク)設立



竜巻災害を教訓とした協働の取り組み

■ 民間事業所との災害時応援協定の締結

● 旭化成ライフスポット (応急給水設備)



(応急給水栓、給水車へ給水)

災害を契機に協働の気風が醸成

■ 「海岸清掃大作戦」(平成19年台風5号)



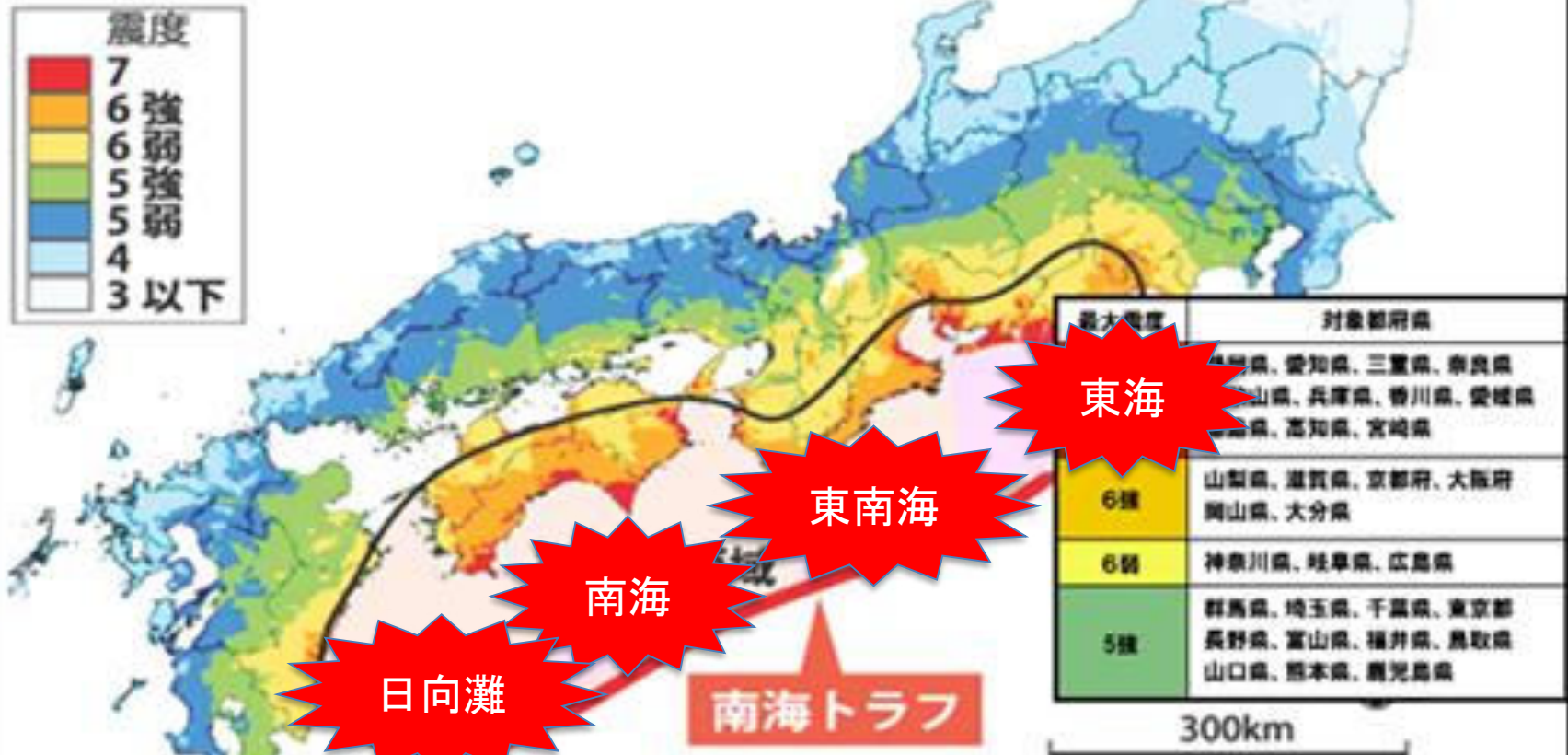
市民協働の前提として共通認識を

(例) 南海トラフ巨大地震に現実感を持っているか

全国被害想定

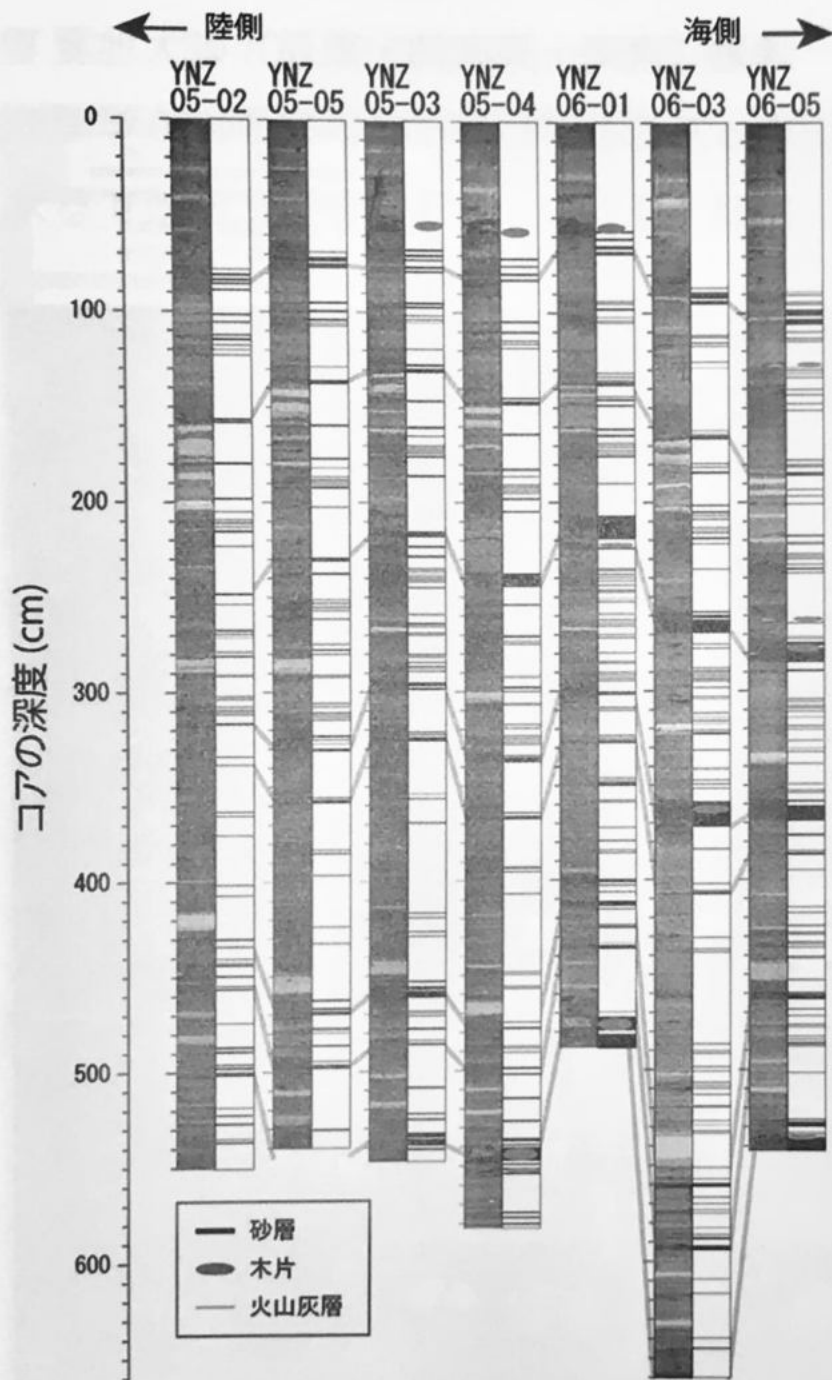
最大震度7: 静岡県、愛知県、三重県、奈良県、和歌山県
 兵庫県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県、宮崎県の11県

南海トラフ巨大地震による震度の最大値の分布



過去の巨大地震の痕跡

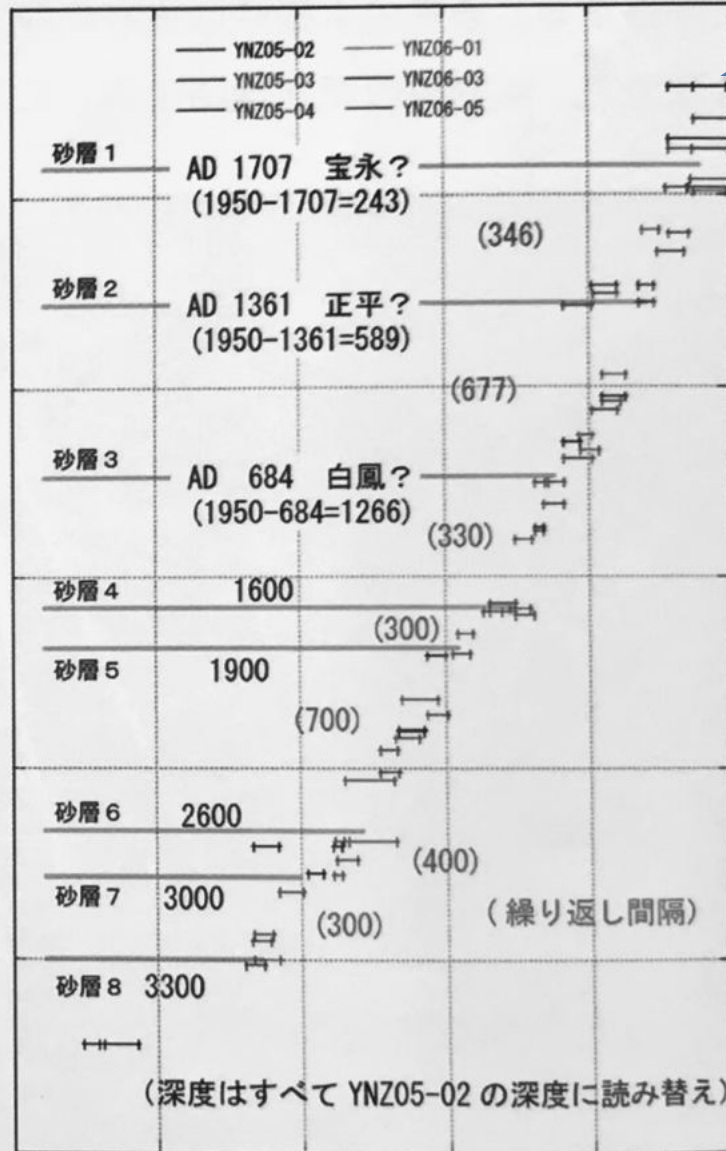




年代 (cal. BP)
(西暦1950年を基準として、何年前かを表わしている)

現在

5000 4000 3000 2000 1000 0



313

346年

677

330

300

700

400

300

(大分大学、高知大学共同調査による)

南海トラフ巨大地震の概要

	延岡市での想定
地震規模	M9.1
最大震度	7
津波最大値	14m
津波到来までの時間(津波高1m)	17分
// (津波高10m)	25分
浸水面積	3,140ha

被害想定

	最悪想定死者数	対策後死者数
延岡市	8,400	880
宮崎県全体	35,000	8,600

最悪想定・・・最悪規模地震、冬深夜、津波避難ビル整備済の想定
対策後・・・耐震化率90%達成、早期避難徹底

自治体間の協働（連携）

- 東日本大震災の時に延岡市はいわき市を支援
 - 県経由での支援は対応が遅くなった
 - 平常時からの連携なら発災時に即応体制がとれる
 - お互いに顔の見える関係を作っておく
 - 縁を大切に
- 姉妹都市連携
 - いわき市（福島県） & 由利本荘市（秋田県）
 - 坂井市（福井県）
- 九州市長会連携
 - 熊本地震の際の迅速な初動
- 近隣自治体連携（相互応援協定など）
 - 佐伯市（大分県）、日向市（宮崎県）